

東北で大人気の「いのちのアサガオ」(現地スタッフ「てつ」こと日置哲二郎さんから)

「いのちのアサガオ」は、平成5年に白血病のため7才で亡くなった丹後光祐君が、約3ヶ月間だけ通った小学校で大事に育てていた”アサガオ”です。おかあさんのまみこさんが、そのアサガオを育て続け、「アサガオが親善大使となって、命の尊さ、白血病に苦しむ人がいることを知って欲しい」と願って、多くの小中学校などに配られています。

日本リザルツでは、東北での復興活動において、殺風景で無機質な仮設住宅と周辺施設をお花で一杯にして、明るくして住民の方々と心の安らぎを共有しようと計画しました。その際に、「骨髄バンク命のアサガオにいがた」の丹後まみこさんのご好意により、1万袋(1袋5粒の種、5万粒)のアサガオの種を無償提供して頂きました。

7月上旬には、仮設住宅周辺でのイベントに合せ、アサガオの種を一つ一つ植え、苗に成長させてきました。そして、イベント当日には、アサガオの種の袋と苗を仮設住宅のみな様にお配りしました。多くの方がアサガオの種と苗を受け取り、笑顔に包まれながら持ち帰る姿を目にしました。また、現地協力団体であるカリタスジャパン(釜石市)と共同で、アサガオの苗と土とプランターを中妻町、平田町、平田町第2、第3、第4仮設団地など、釜石市にある仮設住宅のみな様に届けてきました。また、子ども達にも喜んでもらおうと、地元保育園などにも届けました。その後、仮設住宅を尋ねると、「いのちのアサガオを知っている。大切に育てたい。」、「お花が好きで、花が咲くのが楽しみ。水やりが毎日の日課です。」などの声が聞かれた。

8月中旬、暑い天候が続くなか、アサガオの成長が心配されたが、みな様のお世話で、順調に成長していました。そして、9月に入ると朝夕が涼しくなり、色とりどりのこうすけ君のアサガオの花が仮設住宅で力強く咲いています。

※こうすけ君の「いのちのアサガオ」に関する情報は、<http://www.iplus.jp/~asagao/>



*種から一つ一つ育てた苗



*各仮設住宅にお届けした苗



*順調に成長中のアサガオ



*8月中旬、綺麗に咲いたアサガオ



*生い茂るアサガオ



*アサガオに囲まれた仮設住宅

日本リザルツ作成の職業別事業再建ハンドブック簡易版 6,000部を岩手県釜石市、陸前高田市、大槌町の方々に届けました。



TMP トータルマーケティング プリンティング様が印刷代の一部を寄付してくださいました

リザルツフラッシュ「流木」から作った「削り節」配布 NHK ニュースに

東日本大地震の発生から5か月目となる8月11日、被災地にたどり着いた流木で作られた「削り節」の配布が定例の「つなみ・ハイチ募金」に合わせて行われ、その様子がNHKニュースで取り上げられた。

この削り節、もともとは三陸地方沿岸を襲った津波の後に散乱している流木をみたインターンスタッフの堤さんが、東京で暮らす人たちに震災を風化させない「証し」として活用出来ないかと持ち帰った数本から作られたもの。そしてリザルツでは毎月JR水道橋駅近くで行っている「つなみ・ハイチ募金」活動の場で、流木を削り節にしてお渡しすることとした。事務所では堤さんほかボランティアスタッフが、特に良い香りの流木を厳選し、ナイフで数センチ四方程度にまで細かく削り落としたものを袋詰めにする作業を続けている。この日は朝からNHK社会部の中村淳記者が来所し作業の様子をカメラ撮影した後、募金活動の現場に移動し配布に専念するスタッフや市民の声と合わせて熱心な取材が続けられた。一連の様子はその日のNHKのテレビ・ラジオの全国ニュースとして取り上げられた。



*配布した三陸の流木の削り節を入れた香り袋



*中根保政会長から提供された復興Tシャツを着て募金活動後、ボランティアの皆さんと



*NHKスタッフと一緒に

朝日新聞9月2日朝刊17面の「わたしの視点」に日本リザルツの海老原淳コミュニケーション・ディレクターの復興連帯税の投稿記事が掲載されましたので、皆様ぜひお読みください。朝日の電子メディアでも収録されています。当団体理事のピーター・バラカン氏もこれを読み自分の番組で紹介したいとのコメントを早速寄せてくれました。

尚、日本リザルツの活動については、ホームページ <http://www.resultsjp.org/main.html> やブログも合わせてご覧ください。